

さざなみ

須崎市教育研究所 発行
令和5年10月3日

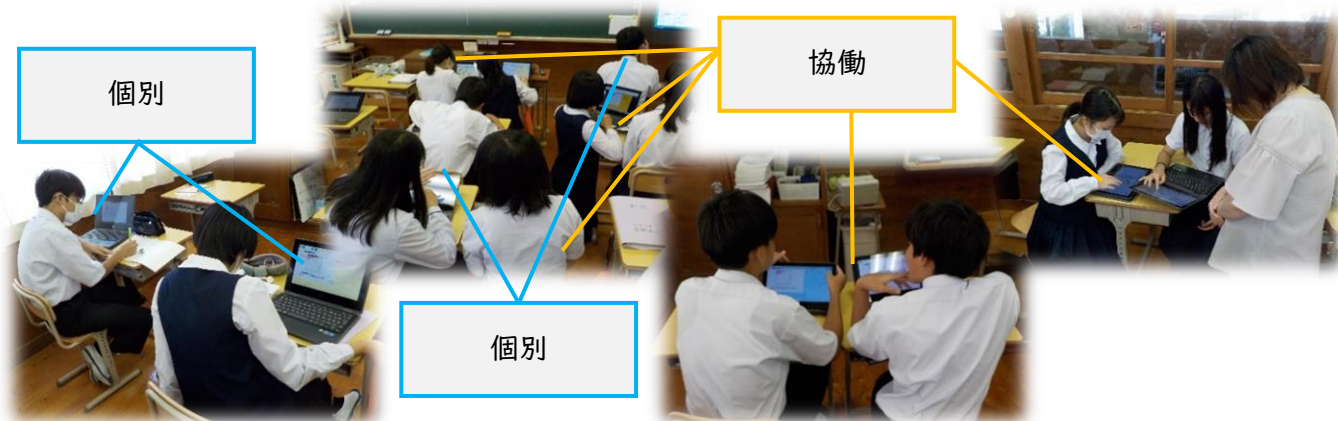
研究の様子

【個別学習×ICT×協働学習】

タブレット上で全員が見られる場所に、個人が思考するためのシートを人数分用意しました。

解決活動が始まると、生徒は自分なりの考えをシートに書き込みます。自分の力でじわじわと答に辿り着く生徒が出てきます。一方で、途中までは解ける、という生徒や、解き方が分からず固まってしまう生徒もいます。そんな人は、他の人のシートを覗きに行きます。自分で理解ができれば

再び自分のワークシートに戻って解き始めます。友だちのワークシートに書かれてあることを読んでも理解できない生徒は、解いた本人や先生に聞きに動くこともできます。



また、今回は一覧を見た際に状況が分かるようにワークシートの色で意思表示をするシステムを導入してみました。教師も生徒も、この色分けも活用して関わり合いながら課題に取り組みます。



今回は

水色

→自力でできそう!

黄色

→助けが欲しい!

桃色

→難しいけど1人で考えたい!

でやってみました。

○良かった点

- ・自分たちで間違いを指摘し合ったり、解決方法を模索したりできていた。
- ・教師はタブレット上で生徒の進捗状況が確認できるので、適切なタイミングで個別の支援ができた。
- ・全員分に目を通して、全体で共有したい考え方を見つけることができた。
- ・書き方の指摘など、ノート指導が授業中にある程度できた。

☆未実施ですが、解決活動中の一覧の画面を「画面収録」で動画にしておけば、後から思考の変容を見ることもできそうです。

○改善点

- ・初めは「自分のタイミングで人に聞きに行く」ということのハードルが高かったらしい。こちらから「疑問に思った部分を聞きに行ってみよう」と指示があって初めて動く、という状態だった。
- ・進み具合に差ができた。もう少し細かいステップでのゴール設定をする必要があると感じた。

☆生徒とルールやゴールの確認をしておかなければ、だらだらとした活動になりかねないと感じました。

「人の書いたものを丸写しにするだけになるのでは…」という懸念もあるかもしれませんが、それは一斉授業をしていても同じだと思います。最終的には自力で解けるようになることを目標に、自分のステップでできるように個別でサポートしていければよいのではないかと考えています。

こうした時間を確保するためにも、知識・技能の習得の時間をいかにコンパクトにするかはとても大切だと感じました。

ICTのとびら

「高知家まなびばこ」には県が用意した様々な教材が保存されています。もうお使いかもしれませんが、その中でも、日々の授業の中で活用できそうな Google フォームによる小テストをご紹介します。

1つ目は「これ単」です。以下に活用の手順をお示しします。

①右クリックで「コピーを作成」を選択→自動的にマイフォルダ内にコピーが作成される。

②コピーしたファイルを開き、右上の「送信」をクリック。

③送信方法から真ん中の「リンク」を選択し、コピー。

④クラスルームやロイロノートで生徒にリンクを共有し、回答してもらう。

これによって、煩雑な丸付けも採点も自動でやってもらうことが可能です。

2つ目は数学の「単元テスト」です。こちらも上と同じ手順で生徒に解いてもらうことができます。しかし、こちらの場合、数式や説明などはノート等の別の紙に解くような指示があり、すべてをフォーム上で処理することができない状況です。工夫すれば、紙で行うよりは業務効率を上げることができるかもしれません。

